

鶴岡市総合計画審議会企画専門委員会（会議概要）

- 日 時 令和4年12月27日(金) 午後2時から午後4時まで
- 会 場 鶴岡市役所6階 大会議室
- 委員発言の概要

【総合計画の大綱別に分類】

暮らしと防災

- ・鶴岡には、「自分は激甚災害とは縁がない」と思っている人がいると思うので、認識を改めてほしい。有事の際、対象者に対し必要な情報を的確に届けることができると良い。
- ・有事の際、高齢者や情報機器に不案内な人にも必要な情報が伝わるようにしなければならない。
- ・コロナ禍で地域の社会活動に支障をきたしている。子ども達と地域の絆がどんどん薄れてしまっている。その状況を踏まえ、総合計画へも一定の考え方を示しておく必要がある。行政と町内会で理解し合い克服する課題だと思う。
- ・コロナ禍を経験して、皆が人とつながることを必要としている。例えば、学校ではGIGAスクール構想でタブレットが配布され、休んでいる生徒へタブレットで授業の様子を配信しオンラインで繋がることができた。
- ・コロナを経験し、今まであまり意識してこなかった、命を守ることや安心・安全が重要であると認識した。
- ・朝日と温海で生活調査を実施しわかったことだが、若いうちは良いが、やはり高齢になると問題が出てくる。雪かきは大変な一方で、住民のコミュニケーションの創出に繋がる。人口減少や暮らすということを考えると、雪との共存は大きな課題である。

福祉と医療

- ・デジタルを活用し、過疎地域で医療機関にアクセスしづらい人に対する遠隔医療も考えられるのではないか。
- ・若者の自殺予防をしっかりやっていく必要がある。学校だけではなく、家庭、地域でもケアしていくことが大切だ。ゲートキーパーの研修もどんどんやっていく必要があると思う。「SOSを自分から求めることは恥ずかしいことではない」というような教育をしていくことが大切である。

学びと交流

- ・高校卒業間近に地元に残るように言っても理解してもらえないので、高校を卒業し、一旦鶴岡を離れても、やはり鶴岡に戻ってきたくなるように思ってもらおうよう、小さい頃から地元を愛するような教育を進めていく必要がある。
- ・コロナの影響で、小中学校の行事がなくなり、地域と接する機会も減っている。早く、地域と子供たちが交流する機会を復活させることにより、長い目で見れば地元回帰、人口減少対策に繋がるのではないか。
- ・今年から高校で探究学習が始まったので、探究学習と鶴岡の魅力発信を結びつけた機会を設けてはどうか。
- ・「鶴岡を愛する子供を育てる」というのは学校や教育委員会だけではなく、さまざまとこ

ろが関わって協力していく必要がある。

- ・高校生などと地域の人が、ざくばらんに話をするような機会を増やしていくことが必要だ。
- ・地元回帰は子供本人が決めることであるが、戻ってきてもらうことを考えると、全国的に鶴岡は良いところだということを教育したり、行政中心にやっていく必要がある。
- ・鶴岡は自慢できることがたくさんあるので、もっと広くアピールする。働きやすい環境やこういう会社があるということをもっとアピールすれば子供たちは帰ってくるのではないかな。
- ・サステナブル「循環型」であったり、徂徠学の「自ら考え学ぶ意識を高める」という部分をアピールすることによって、良いまちだということが、子ども達に伝わるのではないかな。
- ・就職先を決めるに当たり、学生たちは迷うことが多い。他力によって決まることもあるので、企業などのアプローチの仕方も工夫が必要ではないかな。

商工と観光

- ・交流人口を増やすのも良いことだが、まずはここにいる鶴岡市民が安心して働ける場所、環境づくりをしっかりと構築していく必要がある。現場の生の声をもっと反映してもらえると、より良いものになると思う。
- ・3つある日本遺産が繋がるような施策を創る必要があるのではないかな。

社会基盤

- ・審議会で提起された2つの意見（1. 中心市街地に住む人を増やさなければいけない 2. そのためには中心市街地の高さ規制緩和が必要）は、企画専門委員会や社会基盤専門委員会でも議論すべき内容として受け止めざるを得ないだろう。
- ・私は、高さ規制の緩和を受けた高層住居に住むことが本当の豊かさなのか疑問がある。（鶴岡のように歴史文化が集積している）まちの中にどのように住むことが本当の豊かさに繋がるのか、そこが肝要だ。
- ・委員会では住みたくなる中心部というものを、具体的にかつ包括的に議論する必要がある。「住む」ということを軸にして、住まいのかたち、みちなどの公共空間、バスなどの移動手段について議論を展開したい。
- ・その議論は、「毎日おいしいここで暮らしたい」という感覚がまちの中でも味わえる場所をどうやったらつくれるのかということだろう。

【大綱分野以外】

新型コロナウイルス感染症

- ・コロナに対する正しい理解と知識が必要だ。一番重症化するような頃の知識のままで止まっている人も見受けられる。実施する側が正しい知識を持ち、できることできないことを判断する必要があるのではないかな。

デジタル化の推進

- ・デジタル化を分野横断的に色々な形で取り組むとともに、今後、取組の中にどう反映させるのか見えるような形にしてほしい。
- ・デジタル化で役所の業務効率化も推進してほしいが、市民が便利になるようなサービスを提供していくことが重要である。
- ・デジタル化の推進は、行政だけではできないので、民間企業や学校、研究機関とも連携し構

築していくことが重要になってくる。どういう実行体制で進めるのかも意識して、後期計画に盛り込んで欲しい。

- ・デジタル化がどのようなメリットがあるかアピールしていくことが大事だ。荘内病院では、国立がん研究センター東病院との医療連携が進み、デジタルを活用した遠隔手術サポートなどが行われている。地方に住んでいても、最先端の治療を受けることができる。

これから重視したい着眼点

- ・現計画策定時にはあまり意識されていなかったDXがこれからの5年間で重要になってくる。
- ・市民、企業団体、地域社会、あらゆるレベルでの「参加」が大事だ。市民一人ひとりが、使命感を持って「参加」できるような仕掛けが必要だ。
- ・具体的な提案としては、例えば、移住体験型の住居づくりのような巻き込み型のプロジェクト。地域の人が補助金プランをつくるなど、地域を巻き込んでいくと、当初は関心がなかった人達も関わり発展していく。

K P I

- ・現在のKPIはどちらかと言うと施策の目標値(KGI)が記載されているように見える。KPIを目標達成の中間目標として、もう少し小さな単位に分割できると足元の活動に繋がりやすいと考える。そうすると進捗状況も見えやすくなるので、それを見た市民側の安心感にも繋がるのではないかな。
- ・施策数が多く、施策同士の優先順位が見えづらい。優先順位の付け方として、例えばインパクト(金額や影響度等)で大きさを数値化して、インパクトが高いものの優先順位を上げて軽重を付ける等のやり方もある。また、もし、現状「人口減少対策」の優先度が全施策内で高いのであれば、それが他施策と比較して重点施策だと分かるよう明示できるとよいかも知れない。
- ・施策とその進捗状況のサマリ(まとめ、要約)を一覧化して、市民側が簡単に総合計画の状況を確認できる環境があれば、市民を巻き込んだ活動に繋がるのではないかな。
- ・コロナ状況の理由により、「C評価」ないし「評価不可」だった施策は、withコロナ状況を踏まえた上で、目標値の変更、ないし活動自体の変更を検討する等、見直しが必要なものもあるのではないかな。

総合計画の推進

- ・市民一人ひとりが資料を見たときに、わかるようにしなければならない。市民が総合計画を意識する上でも、一覧表を作るなど、わかりやすいものにする必要がある。
- ・市民は総合計画のことをほとんど知らないのではないかな。市民に対しどう知らせ、どう考えていくかを含め計画を推進していく必要がある。
- ・月に1回位総合計画の日を作るとか、こういった計画が進行中だとか、これはコロナで遅れているとか、そのようなことを市民と共有できるような仕組みが大切なことかもしれない。

その他

- ・今年度実施したアンケート調査結果によると、市政に意見を反映したい市民が多いので、意見やアイデアを投稿できる仕組みを検討し、市の計画にどう反映させるか考える必要がある。
- ・若者の意見を把握する方法の一つとして、高校の地域活性化ゼミなどに働きかけ、意見を聴くのも良いのではないかな。
- ・総合計画審議会で学習会の必要性の話があったが、とても良いことだ。

- 市政へ参加したい人を含めて、深く話し合うような場を作っていく必要があるのではないか。
- 鶴岡らしさやここにしかないものを強くしていき、他の地域との差別化を図れば良いのではないか。